

あなたとわたし

手をつなぎ 足もしっかりと 良い社会

vol.37
2011.11月号



DV(暴力)のない社会を 目指して



「DV (ドメスティック・バイオレンス)」という言葉をよく見聞きするようになりました。

「自分には関係ないこと」と思っていないですか？

DVは夫婦の間だけで起こるものと思われがちですが、実際には中・高校生や大学生などの恋人同士の間でも「デートDV」が起きてます。

今号では、男女がともに基本的人権を尊重し合い、自分らしく暮らしていける男女共同参画の実現を目指し、市内で男女共同参画社会を推進している団体の方と関係者で、配偶者や恋人など親しい関係にある者からの暴力について考えました。

デートDVとは？

結婚していない恋人間の暴力、特に若い世代で親密な関係にある相手からの暴力を指します。

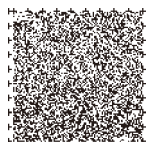
DVとは？

ドメスティックバイオレンスのことで、主に夫婦間での家庭内暴力を指します。



内閣府男女共同参画局
女性に対する暴力根絶の
ためのシンボルマーク

目の不自由な方への情報ツールとして開発された二次元シンボル「SPコード」を掲載しています。専用の読み取り装置を使って、今号の内容を要約した文字情報を音声で聞くことができます。専用の読み取り装置は市内の公共施設9か所に設置しています。くわしくは協働推進課へお問合せください。





今回は7名の方に参加いただき、座談会を開きました。内容がDVという関係上、参加者のプライバシー保護に配慮し、全ての方を匿名とさせていただきます。

DVはなぜ起きるの？

- A：** DVの背景には女性を男性より低く見るとか、男女の固定的な役割分担意識、経済力の格差などがあると思いますが、女性、男性という前に人間性だと思います。
- B：** DVが起きる背景には暴力の肯定があります。暴力を振う側は「お前が間違っているからその間違いを正すために、教えるために、本当は使いたくないが力を使ったんだ」という言い訳をします。でもそうして自分を正当化するのは、「正しいことのために使う暴力は許される」という考えが根底にある。それこそが暴力の容認であり、肯定なのです。このような考え方があるかぎり社会から暴力がなくならないでしょう。

次に支配欲、所有欲というのがあります。自分の思いどおりに相手を支配出来れば気持ちがいいわけです。そのために暴力を使う。自分の都合や好みに合わせたり、自分を優先することを女性だけに求める。その背景には、女性が男性に従うという形を良しとするジェンダー観(性的役割分業)があります。

被害者の判断力を奪うDV

- A：** 被害者の中には、私さえ我慢すればいいとか、私が悪いから怒られると思っている方もいます。
- D：** 暴力が繰り返されていくうちに思い込まされる、刷り込まれるのですね。
- B：** 被害者は、自分のどんな行動や言動で相手が怒って暴力を振るうか、経験で学んでしまう。そして次第に相手が怒らないよう、相手の価値観に合わせて行動するようになる。最終的に自分の価値基準で判断や行動が出来なくなってしまう。たとえ相談に行っても、自分で決めて行動するのが難しいのはそのためです。
- C：** 暴力が続いたりすると、相談に行く気力さえなくなってしまう。相談することさえ出来ずに悩んでいる人は大勢いると思います。

誰でも加害者・被害者になってしまう？

- D：** 今のお話を聞いていて、私も娘に、「あなたがこうするからいけないでしょ、こうしなければいいのよ」と言っている時があるな、と思い当たりました。自分がカーツとなっている時、ついつい無意識のうちにそういう言葉を浴びせているな、とドキッとしたんです。娘を私の価値観に従わせようとしているんだなと思いました。
- B：** 誰でも心当たりがあるんです。自分自身の中に暴力を肯定する部分があるということなんです。
- E：** 誰もが被害者になり、加害者にもなりうるんですね。
- C：** そうですね。誰もが加害者にも被害者にもならない社会を目指すというのがDVのない社会ということなんだと思います。
- B：** DVは社会の問題として取り組むべきことなんです。でも「DVって当事者間の問題でしょ」と思われているからなかなか理解が深まらないのです。

子ども達の恋愛観と暴力

- C：** 今の子は中学生でも付き合っているとか、小学生から好きな子とデートしたり、ペアでいるというスタイルが出来つつありますね。
- B：** 少女マンガを見ると、男女が付き合うのがカッコイイ、すてきなこと、とずっと言われているんですね。ドラマの恋愛でも「おれについてくればいいんだ!」みたいな、少し強引な男の人に惹かれるものが若い子の間でも人気です。
- C：** 学校では男の子を呼び捨てにするような女の子が、カップルになったとたん演歌の世界(歌の歌詞の中の女性は、泣いて、待って、耐えて。男は男らしくとなっている)になってしまうのが不思議ではないというのがDVを研究している方の感想です。カップルになるというのは自分が選ばれた存在で、二人でいることはとても居心地がいい、彼に守られる自分というシチュエーションに酔うのかもかもしれません。
- B：** 学校の中ではどうしても学力で評価されますし、家でも勉強、成績と言われますし、自己肯定感がどうしても低くなってしまいがちですね。でもそんな自分のことを好きだと言ってくれる相手がいたら嬉しいじゃないですか。自己肯定感が高まりますよね。自信のない子ほど恋愛に依存して、相手を逃したくないから暴力

にはまっていくというケースもありますね。

デート DV の被害者は女性だけじゃない

B：DVは圧倒的に女性が被害者ですが、デートDVになると男性の被害も結構多い。例えば経済的暴力、女性に高いプレゼントを買わなきゃいけないとか、メールのチェックをされるとか。

C：携帯電話を逐一チェックし、アドレスを消去する。これは女性にとってはやりやすい暴力です。殴ったりすると違って力もいらないけど、確実に相手を困らせることが出来、支配することが出来ます。

宇都宮の中学生に去年行った調査で、メールで行動チェックといった行為は4割近い子が暴力とは思っていないという結果が出ています。

B：7割の子が付き合っている2人に暴力は起きるわけがないと思っているんですね。でも横浜の調査では3人に1人が暴力を振るわれていると出ています。想像より暴力を振るわれることが多いということに気づいていません。

E：いかに気づかないうちに暴力をしたり、受けたりしているか、ということですね。

B：未然に防ぐためには教育が大事です。

C：DVは起きてからでは、心も体もすごく傷ついているので、回復に時間がかかります。暴力を振るわない、受けないための教育ってすごく大事です。

子ども達はデートDVの相談は大人には言わない。友達にしますが、その友達も十分な知識を持っていないので、いい方向に進まない。相談しても逆に「何のろけてんの」で終わってしまう。しかし友達が教育を受け、デートDVを知っていれば、的確なアドバイスも出来るし、大人や相談機関に相談した方がいいよ、と伝えられる。みんながそういうことを知ることが大事だなと思います。

デート DV のチェックリスト

E：ここでちょっと DV のチェックリストがありますのでご紹介

介します。

- 携帯のメールや履歴を勝手にチェックする
 - 自分以外の人と会うことを非難する、機嫌が悪くなる
 - 自分以外の異性と話したり、電話やメールすることを禁じる
 - 気に入らないことがあると相手のせいにする
 - ばかにしたり、傷つくことをわざと言う
 - 腹を立てると相手を叩いたり、殴ったりする
 - 腹を立てると相手の目の前で物を叩いたり、壊したりする
- (一つでもチェックが付いたら、デートDVを受けている可能性があります)

社会啓発に向かって暴力防止の活動

C：連れ去り等の子どもへの暴力防止のため、体験型の講習会をやっているんですが、今年から女の子や小さい子への性的被害の予防ということで、プライベートゾーンというのを子ども達に教えています。

プライベートゾーンというのは口、胸、性器など性的な部分を言います。そういうところを見せる人もいれば、見せてと言われる場合もありますよね。でもそこは見せるべきところじゃないんだよ、ということ子どもに教えています。併せて、もしそういうことがあれば大人に相談しなさいと伝えています。被害にあってもきちんと話せるようになって欲しい、そのためにやっています。

B：体験型の講習会は4歳以上なら大丈夫です。出来たら小学校入学前、保育園や幼稚園でやりたいのですが、なかなか機会がないです。

F：プログラムがもともとあったのですか？

C：学習を重ねて自分達で作りました。どうやったら子ども達、大人達に伝わるのか、試行錯誤して何年もかけて作ってきました。楽しみながら、学んでもらえたらなと思っています。

D：そういう活動をされてるのを知らない人が多いですね。今は女の子も男の子も連れ去りがあるので、小

目の不自由な方への情報ツールとして開発された二次元シンボル「SPコード」を掲載しています。専用の読み取り装置を使って、今号の4面記事コラム「DVについて」の文字情報を音声で聞くことができます。専用の読み取り装置は市内の公共施設9か所に設置しています。くわしくは協働推進課へお問合せください。





さな子には繰り返し聞くことが大事でしょうね。

G：今日のお話を聞いて、デートDVやDVは当事者だけの問題ではなくて社会問題であり、みんなが意識していかないと解決していかない。被害者だけが頑張ればなくなるんじゃないんだと感じました。

C：たいていの加害者は自分が暴力を振るっているという自覚がないので、他人から何か言われても変わらないというのがネックかなと思います。

ただ社会で「暴力はノー」と言うことは出来ると思

います。暴力はやってはいけないとまわりの声が高いと抑制がかかりますよね。そういった抑制の声を挙げていくためにも教育は大事ですし、実際に被害に遇われた方は相談機関や社会が支えていくことが大事なんだと思います。

E：今後も皆さんの活動に期待をしていきたいと思っています。

市としても相談体制の強化だけでなく教育や啓発活動をより一層充実させ、DVのない社会を目指していきたいと思っています。

相談窓口

●女性悩みごと相談（予約制 1日先着3名）

夫や恋人からの暴力や女性を取り巻くさまざまな悩みごとの相談に応じます。福生市・羽村市にお住まいの女性ならどちらの市でも相談を受けられます。

福生市相談日 毎月第2・4水曜日午前9時から午後1時まで

（申込み）秘書広報課広報広聴係 電話 042-551-1529

羽村市相談日 毎月第1・3・5水曜日午後1時30分から4時30分まで

（申込み）羽村市広報広聴課市民相談係 電話 042-555-1111（代）

●DVの相談はこちらでもできます。

◆**東京ウィメンズプラザ** 03-5467-2455（9:00～21:00 年末年始を除く毎日）

◆**東京都女性相談センター** 03-5261-3110（9:00～20:00 土・日・祝日、年末年始を除く） 夜間・緊急時 03-5261-3911

◆**東京都女性相談センター多摩支所** 042-552-4232（9:00～16:00 土・日・祝日、年末年始を除く）

◆**警視庁総合相談センター** 03-3501-0110（8:30～17:15 土・日・祝日、年末年始を除く） 夜間・緊急時は110番（事件発生時）

DVについて

近年、ドラマなどでも取り上げられ認知度も上がってきた「DV」という問題、皆さんはご存知ですか？DV（Domestic Violence…ドメスティックバイオレンス）とは、夫婦や恋人に対して、相手を思い通りにコントロールするために振るう暴力のことです。男性から女性への暴力がほとんどで、女性の3人に1人は一生涯のうちに一度は被害を受けるほど身近な問題です。DVというと「他人事のように」と感じる人もいるかもしれませんが、ご自身や大切な家族、友人をDVの被害から守り、また加害者にもさせないためには、正しい知識を持つことが大切です。

DVといってもさまざまな形態があります。①身体への暴力：素手や物で殴る、蹴る、刃物などで脅す、首を絞める、熱湯をかけるなど。②精神的な暴力：バカ、死ね、殴るぞ、など実際に危害を加えない

NPO男女共同参画おおた スタッフ 指田祐美

が精神的に脅す（メールなどでも行う）、無視する、人前で侮辱するなど。③経済的な暴力：生活費を入れない、また勝手に使い込む、妻が外で働くことを妨害する、家計を厳しくチェックするなど。④性的な暴力：性行為の強要、脅しや暴力的な性行為、避妊に協力しない、中絶を強要するなど。⑤子どもを巻き込んだ暴力：子どもを危険な目に遭わせる、暴力を振るっているところを見せる、暴力をふるうぞと脅すなどです。これらは、いくつか組み合わせて行うことがあります。

DVは個人的な問題だからと一人で悩んだり、諦めていると、より深刻化してしまいます。また周りにDVで悩んでいる人がいたら、相手を否定せず話を聞くようにして下さい。DVは専門家に相談することで必ず解決策が見えてきます。市の相談機関や警察には窓口がありますので、ぜひ利用しましょう。

広告スペース

市民編集員 ○輿水和田代 ○寺崎敏枝 ○濱原幸恵

企画編集 NPO法人NAFA子育て環境支援センター

あなたとわたし vol.37 2011年11月号

発行：福生市 生活環境部 協働推進課

〒197-8501 東京都福生市本町5番地 電話 042-551-1590

<http://www.city.fussa.tokyo.jp/>